

職場の同僚にお渡しください。

## 茨高教組 通信

21年度第8号

# シミュレーションは後日、 先に本日「改善策」を決定

～5/21(金)入試採点問題」での県教委交渉、主な内容報告～

### シミュレーションは後回し!? 先に導入ありきの姿勢鮮明!

調査改善委員会が提言した答案用紙をコピーし2系統で行う採点方式について、組合は長時間に及ぶ方法とし、導入しないよう要求した。これに対して県教委は「2系統は有効、他県でも採用」「今後、シミュレーションして長時間にならないよう採点マニュアルに反映させる」と回答した。

やり取りの中で県教委は、マニュアルの基となる「改善策」を24日(本日)の定例教育委員会で審議。肝心のシミュレーションは時期未定とした。

また、先日の閉会中審査を経て、今後、県議会文教警察委員会が県教委に「提言」を出す、その時期について県教委は6月頃との認識を示した。

これらのことから、県教委は2系統採点方式のシミュレーション(コピーの方法や所要時間を含む)や文教警察委員会「提言」の確認を行わずに、調査改善委員会の提言内容を「改善策」に盛り込み、2系統の採点方式導入の道筋をつけようとしていることが明らかとなった。

### 記述式(長文)の出題に固執! 「出題」改革を含む改善策を!

部分点や複数解が生じる記述式(長文)(以下、記述式)の出題が増えるとその部分の採点が長時間化し、記号式などそれ以外の採点条件にも影響を及ぼすことから、組合は記述式による出題をやめるよう要求した。

県教委の回答は「思考力や判断力を問う問題は必要」「基準は偏りが生じないように検討する」というものだった。

やり取りの中で、県教委が記述式の出題数や配分の基準を定めていないことが明らかになった。組合が、記述式の出題数を多くしたことが採点誤り誘発の原因と指摘したところ、県教委は「原因はそれだけではない」と原因の一部との認識を示した。しかし、今後の出題数については「どうするかは言えないが、教員の負担にならないように検討する」と曖昧な回答に留まった。

現場からは、記述式の出題が多すぎたために教科外の教員が記述式の採点に加わらざるを得ない実状を訴えた。県教委はその事実を把握しておらず、そうした因果関係について見解を求めると、「何とも言えない」と回答した。

この回答は、現場教職員に対しても、受検生に対しても無責任な態度と言わざるを得ない。県教委は記述式の廃止を含む改善策を策定すべきである。